

そらに
つづく
まち

新・火葬場を仮想するワークショップ

未来に贈る“火葬場”とは?

人は、空に想いを馳せます。

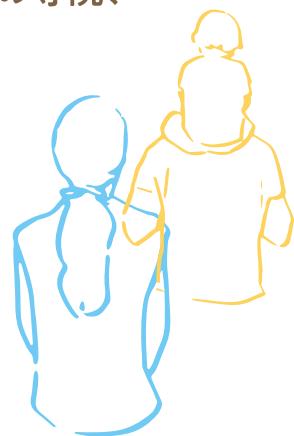
旅立ったひとのこと。これからのこと。自分自身のこと。



このまちの一角には、

そらまち(空町)と呼ばれる歴史的な風情を今に伝えるエリアがあります。

小さな橋が幾つもかかる蛇行した江名子川、軒を連ねる古くからの寺院、
視線を空に移せばゆったり流れる雲と、凜と聳える山々。



「空」に近い場所に新しくつくる火葬場を、
故人の旅立ちにふさわしい厳かな空間、
見送る人々にとってやさしく温もりのある空間、
そんな空間にしたい――。

そういった思いから、新しい火葬場のあり方を
みんなで考えるワークショップを開きます。

個性や多様性が尊重されるこれからの時代にふさわしい火葬場とは?

市民から親しまれ、地域住民が誇りを感じられる火葬場とは?

火葬場をきっかけに描く、まちの未来とは?
いろんな角度から、みんなで仮想してみませんか?

桜がほころび始めるシーズンからスタートします。

参加者
募集

〆切 3/19(水)

募集人数 約20名 参加条件 高山市民で原則4回すべてに参加できる方

全4回 第1回 3/22(土) 第2回 4/5(土) 第3回 4/26(土) 第4回 5/17(土)
各回13:30~16:00まで 詳しい内容は裏面をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせ 高山市役所 市民福祉部 火葬場建設推進課
TEL. 0577-57-7755(直通) Mail. kasou@city.takayama.lg.jp

Webで
お申込み



そらに
つづく
まち

新・火葬場を仮想するワークショップ[®]

未来に贈る“火葬場”とは？

こんな方はぜひご参加ください

- ・大切な方を見送った経験のある方
- ・終活について考えたい方
- ・火葬場についての考え方や想いがある方
- ・高山市が好きな方
- ・死生観を問い合わせたい方
- ・町づくりに興味がある方

第1回 3/22(土) 高山市役所地下市民ホール

「人生100年時代とは？／今の火葬場、そして世の中の事例を知ろう」

前半は、参加者同士の自己紹介タイム。人生100年時代について学びながら、参加者同士で意見を交わします。また時間をかけてお互いを知る時間をとります。後半では、いろんな火葬場の事例を学び、私たちのまちにあるといいなと思う火葬場の姿について話し合います。

★初回のワークショップには、自分にとって大切なものの（小物、本、写真、道具など）を一つお持ちください。



第2回 4/5(土) 高山市役所地下市民ホール

「これからの火葬場を仮想しよう／わたしの思う、お見送りとは？」

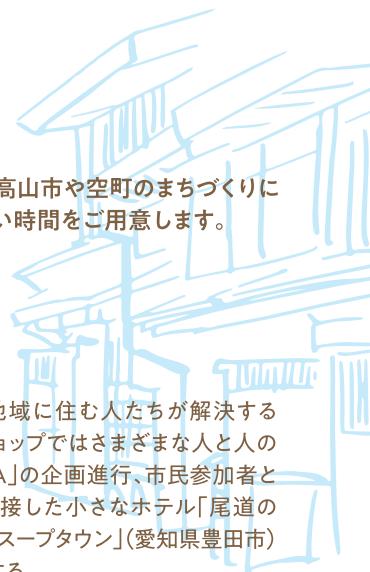
第1回で紹介した世の中の事例や話し合ったことを踏まえて、私たちのまちにできる火葬場に何を求めるかを話し合いましょう。閑静な里山に抱かれた高山にふさわしい火葬場とは？そんな周辺環境からのアプローチも面白そうです。後半では、これまでの経験を踏まえて大切な方のお見送りをどうしてあげたいかを改めて考えてみませんか？



第3回 4/26(土) 高山市図書館「煥章館」生涯学習ホール

「火葬を待つ時間を仮想しよう／これから的人生を充実させるには？」

昨今、火葬にかかる時間は平均して90分。火葬場で待つという選択肢もとれるなか、この待ち時間の過ごし方は、やさしい空間づくりのヒントになりそうです。庭を眺める？ 火葬場から少し離れてまち歩く？ 後半では、いろんな意見を交わしてきた参加者同士で交流しながら、明日からの人生について少し話してみましょう。



第4回 5/17(土) 高山市図書館「煥章館」生涯学習ホール

「みんなの仮想をもとにしたプランお披露目会」

これまで話しあってきたこと見える化してお伝えします。新・火葬場のワークショップは最終回ですが、高山市や空町のまちづくりについても関心を寄せあえる仲間として、これからも関係が続いていきますようにと願いを込めて、楽しい時間をご用意します。



うつみ しん いち
進行 内海慎一（コミュニティデザイナー）

愛知県名古屋市生まれ。慶應義塾大学（環境情報学部）卒業。地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに取り組む。「正しさより、楽しさ」をモットーに住民ワークショップではさまざまな人と人の心と笑顔をつなぐ。岐阜県内では、土岐市制70周年記念ワークショップ「NOVITA」の企画進行、市民参加者と楽しく話しあいを重ね、記念イベントの伴走を務める。また近年、介護施設に隣接した小さなホテル「尾道のおばあちゃんとわたくしホテル」（広島県尾道市）、多世代が交流する複合福祉施設「スープタウン」（愛知県豊田市）など、建築プロジェクトにも多数関わり、地域と福祉をつなぎ、新しい価値を想像する。